

# ひまわり賞 (オークス)

3歳牝・ダート1800m M1  
8月3日 (日) 盛岡競馬場  
昨年の優勝馬・ヨモリリーガル



JBC協会協賛 HITスタリオンシリーズ／日刊スポーツ杯

## 第39回 ひまわり賞 (オークス) (M1) (フォーワールドライブ賞)

盛岡競馬場／3歳牝・ダート1800m

8月3日 (日) 第12競走 19:05発走

3歳牝馬の二冠目となるひまわり賞 (オークス) は1987年に『4歳牝馬チャンピオン』 (※4歳は旧年齢・現在の3歳) として設立。当初は8月下旬～9月上旬に行われる3歳牝馬の女王の座決定戦でもありました。ひまわり賞のあとの3歳牝馬はダービーGPで同世代の牡馬と戦う、あるいはビューチフルドリーマーカップで古馬牝馬と戦う路線になっていましたが、2020年にオータムティアラが設定されて3歳牝馬3冠路線が再整備。ひまわり賞 (オークス) は現在の二冠目の位置になると同時に距離も2000mから1800mに短縮されました。

### ■スノーミックス (牝3 盛岡・永田幸宏厩舎)



5月12日の盛岡7R・3着の後に金沢に移籍、2戦走って岩手に戻るのは予定通りだったのだがこの間の移動に時間を要したのが想定外。しかしそこからは急ピッチで巻き返し力を出せるデキでここに挑む。ここまでの戦績を見れば岩手の3歳牝馬世代の中で上位の力を持つのは間違いないが「気の良いタイプ故かレースをやめてしまう所も出てきた」と永田師。そんな課題を持ちつつもそれを一つ一つ乗り越えてきたのがこの馬の足跡だ。ここでも課題をしっかりと克服し、そして秋へと繋げる。

「内枠を引けたのは良かったと思います。金沢から移動してきた後に調教を開始するまで少し時間を要しましたが調整は順調。ここでの経験をオータムティアラへの糧に。(永田幸宏調教師)」

## ■ピカンチフラワー（牝3 水沢・板垣吉則厩舎）



今回のメンバーの中で実績最右翼と目されるのがこの馬だ。今季の再転入初戦、3月のあやめ賞で待望の重賞制覇。その後の重賞2戦は共に2着だったが牡馬相手に勝ち負けを競っただけでなくいずれも牝馬最先着なのだから評価は上がりこそすれ下がる事はない。今回の課題はやはり1800mの距離という事になるが、それに確たる手がかりがないのはライバルも同じだし、自身は折り合いに難があるタイプでもないのだから足かせにはならないだろう。二つ目のタイトルは射程圏に入った。

「前走後は在厩で調整。順調に来ているので状態に関しては特に心配していない。初めての距離がどうか？ですが、それも対応してくれると思っています。（板垣吉則調教師）」

## ■タイセイアキュート（牝3 水沢・佐藤雅彦厩舎）



重賞挑戦は二度目だが前回は芝のサファイア賞なのでダート重賞は初挑戦。1800mという距離も初めてになる。門別デビューから大井を経て春に当地転入、岩手初勝利までは4戦を要したがその間戦った相手からすれば力量に手応えはあった。マイルで戦うようになって苦戦が目立ち始めただけに現状の課題は距離になるだろうが、それも前走3着とメドをつけつつある点には注目しておきたい。

「短い距離の馬という印象がありましたが前走のマイルでよく頑張っていたのでここに挑んでみます。盛岡の方が折り合いが付くと思うし、この馬向きに流れになれば。（佐藤雅彦調教師）」

## ■スマイルプラス（牝3 水沢・千葉幸喜厩舎）



JRAで2戦未勝利のあとに岩手に転入、そこからは6戦して3着以下がない好成績をキープしている。強豪揃いの3歳B2級に入ってからもうゆる現級上位の常連と互角に渡りあえており、それは今回のライバル達とも同様なのだから力量面は遜色がないと考えていい。克服すべきとすればやはり距離で、岩手で走るミスターメロディ産駒だけでなく全国的に見てもやはりこの父の仔は短距離こそベターな印象がある。ここまでの勢いでどこまでやれるかを見届けよう。

「若干間隔が詰まっていますが状態が良いので挑戦してみます。この距離でどれくらい走ってくれるか？それによってこの馬の力も計れるのではと注目しています。（千葉幸喜調教師）」

## ■ノヴェルウェイ（牝3 水沢・伊藤和忍厩舎）



ここまで挑んだ重賞は7戦でこれはフタイテンホイールと並んでメンバー中の最多タイ。着順こそ5着が最高だが勝ち馬との差は以前よりもグッと詰まってきている。前走のやまびこ賞でも7着ながら2着争いの集団に加わってきていたのだから、ここまでの挑戦は着実の彼女の“実”になっているといえるだろう。今回もチャレンジなのは間違いないが、一連の戦いで培ってきた経験値が活きるシーンも十分にあるはずだ。

「本質的には短めの距離の方がいいのかとは思いますが、前走で1800mを経験しているのを強みにして少しでも上の着順を目指して頑張ってもらいたいですね。（伊藤和忍調教師）」

## ■オールニッポン（牝3 水沢・伊藤和忍厩舎）



これが岩手2戦目での重賞挑戦。転入初戦の前走は3歳C1というクラスで僅差の勝利だったわけで極端な強調はまだできないが、初コース・初ダートで+15kgの馬体重。それで勝ちきったのならここでいろいろと上積みがあるの考えるのも当然だ。JRA時代は芝の中長距離で戦って着順もタイム差も一進一退だったが今にして思えばいかにも成長途上。その点からも伸び代を期待してみるの自然な話になるだろう。芝とはいえ距離を経験しているのも大きな武器。

「転入初戦は良い感じでしたし距離の経験もある。とはいえ岩手では一戦だけですし今回は重賞、力関係がどうか？ですが、良い競馬をしてくれると期待しています。（伊藤和忍調教師）」

## ■アイヨトワニ（牝3 盛岡・齋藤雄一厩舎）



JRA未勝利から転入してきた初戦こそ7着に敗れたがその後の7戦は2勝2着2回3着3回と連続好走。盛岡・水沢も問わないし牡馬とも互角。“これから3歳トップクラスを目指す集団”の中で確かな地歩を築いたと見ていいだろう。ここからの目標はもう一段上のステージに昇れるかどうか？しかし初めて挑んだ重賞・サファイア賞で5着を確保できたのだからそれも手が届かないものではないはずだ。ここでもう一歩前進、次のステージへ。

「状態面は悪くないし最近の走りも良いと感じます。印は無さそうですけどもね、それほど差はない走りをしてくれんじやないかと楽しみにしています。（齋藤雄一調教師）」

## ■フタイテンホイール (牝3 盛岡・齋藤雄一厩舎)



待ち望んだ芝での戦いは4着・5着。勝ち星には一歩及ばずではあったがやはり芝は彼女が伸び伸び戦える舞台だと再確認できた。しかし、だからといってダートでは力を出せないかということそうではない事も確認しておきたい。東北優駿では紅一点として5着を確保しているし、昨年の若鮎賞でものちの2歳最優秀馬がマイカイに先着している。どちらかといえば差しタイプにあまり優しくない今季の馬場傾向が味方してくれていない印象もある。ゆったり進める距離は悪くないはず。あとは展開ひとつ。

「実績的に距離は問題無いと思いますがやはり芝の方が良いと感じる馬。状態も悪くないと思いますけどもね。距離経験を活かしてほしいですね。(齋藤雄一調教師)」

## ■ミナトミナイト (牝3 水沢・伊藤和忍厩舎)



デビューが岩手、そこから岩手を離れず戦い続けている馬は今回のメンバーの中では意外にも少数派。自身初勝利は今年4月、キャリア8戦目になったが、着順の数字通り、ゆっくりと上下しながら力を付けていることは前走で2勝目を挙げた走りからも理解できる。マイルにはメドが付いたとして1800mになるとはたして…の近況だが、繰り返しになるがそれはここでは横一線の条件だ。徐々に戦法が定まり、走りが確かなものになっている今なら克服の可能性は十分に高いはずだ。

「ここ二戦の内容が良くなっていますね。距離も前々走のマイルでの走りが悪くなかったからひとハロン伸びるのも対応してくれそうです。(伊藤和忍調教師)」

## ■ヴァイスウィッチ(牝3 水沢・伊藤和忍厩舎)



2歳時に2勝を挙げ、重賞にも挑むようになって迎えた今シーズン、しかし序盤は苦戦が続いた。しかし暑い時期を迎えて内容一変、直近3戦は3着・3着・1着と来て久しぶりの勝利の美酒も味わう事ができた。3歳B1～B2あたりのクラスは転入馬も次々やってきてなかなか歯ごたえがある戦いが繰り返される。そんな中で揉まれながら自分の形を取り戻す、それもパワーアップしながら…が苦戦のトンネルを抜け出す事ができた要因だろう。ここも自分の競馬で勝負。

「こちらもここ三戦ほどが良い内容でした。スタミナがありそうですし外枠なのもこの馬にとっては戦いやすいと思います。あとはスタート次第ですが良い位置を獲れば。(伊藤和忍調教師)」

## ■コックリサン（牝3 水沢・新田守厩舎）



重賞は2度目の挑戦になる。前回は7月20日のやまびこ賞、7番人気の支持を受けたが11着に敗れている。4月の水沢ではリュウノナポレオン（のちにウイナーカップ制覇）やゲレル（のちにサファイア賞2着）らと差のない戦いをしており力量は確かなものがあるはずなのだが、陣営は盛岡ではやや割引という評価になってきているようだ。距離だけでなくコースにもチャレンジという事になるが、ここまで牝馬にはほとんど負けていない馬、侮るのは避けるべきだろう。

「前走なども状態面は変わりなかったのですが、左回りの走りが、どうも右回りと違うのがどうでしょうか。（新田守調教師）」

文・写真／横川典視